

部会報告

木工部会
12月12日(日) 新開会員の工場を借りて昼から約3時間、西区大工教室の材料の加工にかかった。参加者 有馬・平松・八木(道)・新開・鴻上・岩元・光川(記 光川 隼子)

パソコン部会
事例記録及び活動記録の画像処理用にスキャナーを購入し、ATC中北事務所に設置しました。真・図の保存に使用します。

活動記録カードの管理を能勢会員(中北事務所所員)担当としました。活動内容を記入の上、速やかに中北事務所までFAX願います。(記 和泉 秀子)

経理部会
12月16日午後3時、市社協にて岩本・後藤(美)・光川で、3月決算と12月18日の実行予算の報告を兼ねて、現金と預金の残高確認を行った。(記 光川 隼子)

福祉と生活用品部会
12月16日三浦会員事務所にて打ち合せ(三浦・光川)1月より毎月第3水曜日午後6時半、市社協にて福祉

産業のすきまを狙った生活用品の研究を行います。(記 光川 隼子)

今林の里建設支援部会
5月25日に第1回の部会を開催して以来、二月まで計7回の会合をもつて、施設運営の基本的課題を大和川園のスタッフと共に様々な視点から検討を重ねてきました。その成は、これからの障害者施設のあり方についての重要な展望を構築する内容として認識する事ができます。

ことに、障害者の人権擁護という当然のテーマに沿って、それをどう実現できるのかをソフト、ハードの両に亘って具体的に討議を深め得た事、そして現実に行進する施設建設にも反映する事ができた事は大いに自負できる事です。



舞洲での陶板タイル製作

合宿会議報告

恒例となった年末の合宿会議は、12月28日厳寒の羽衣青少年センターに延べ2人(うち宿泊2人)の会員が参加して行われました。

夕食までの第1部討議では、まず製作部会より手すりなど基本的な活動に関するコストの基準値が示され、当会のコストが市場価格に比して安価であることが確認されましたが、さらに詳細な原価の把握が必要だとの意見が出されました。ついで、本年度残された会期の活動経費に関して、予定される計画とその予算および本会の資金余裕が比較検

また福祉施設建設そのものにおける市民参加の試みとして、延べ8人に及ぶ参加者を集めた陶板タイルも焼成手順に入っており、社会に開かれた施設づくりのシンボルが完成しようとしています。

施設建設は2月末竣工、4月開所にむけての最終的な段階を迎えた事で、部会の一応の目的は達成できたとして、一応の活動に幕を引く事になりました。

掲にあるように12月の合宿会議でその旨、中北部会リーダーからの報告と大和川園、佐藤園長よりの成報告が了承され、今後は、この成を新たな課題に向けて展開してゆく事になりました。

新たな課題として、さくそく4件の具体的要請があり、部会は名称も一新して、活動を継続します。(記 中北 清)



熱心に討議した合宿会議

討されましたが、会のPRとして広範囲に会報を送付する計画等、大きな経費を要する事業は当 自粛せざるを得ないとの結論を得ました。次年度活動計画とその予算配分は、できるだけ早期に検討すべきであるとの意見が一致しました。

続いて、今林の里建設支援部会の活動経過が報告され、その活動に一応の終止符を打つとともに新たな複数の課題が紹介され、部会を再編成してこれらに向かつて活動を継続する事になりました。

休憩をはさんで、最近の住宅改造事例から都島区H邸および寝屋川市K邸を取り挙げて、本会が取り組む住宅改造のたすべき役割

この中で、都島区H邸の経験から、今後の事例について、当会のたすべき使命の範囲や方向性についての事前検討といったものが非常に難しく、また重要であることが確認されました。

また寝屋川市K邸に関しては、短絡的に要望に沿って住宅改造に走る事は本質的な問題解決にはならないとの見地から大和川園の藤原氏にも参画してもらって、家族との対話から始める事になるなど、かつてない建設的な展開が生まれました。

夕食後は、まず杉浦代表が本会の現状と今後に関する所見として、部会活動が活性化し得た事と、その

反、いわゆる縦割りの弊害(?)のような傾向も見受けられるという認識、そして介護保険のスタートを期して参入が現実となる膨大な福祉産業が林立する中で本会がたしてどのような評価を受け得るものかという危惧の念が示され、本会の特質を今一度見据える事が肝要であろうとの話があり、今後は、ただニーズに即した対応に徹するだけではなく、社会制度改革にも取り組める力をもつて、様々な技術開発や情報発信にも努めて行きたい。そしてそんな本会をより正しく、より多くの市民に理解してもらおうようPR活動も大切である事が確認されました。

当然の帰結として、近い将来でのNPO法人格取得を視野に入れた、本会の体質改善が共の認識として、確たるものになりつつあります。

後半はアルコールも入つて、いよいよ討議は白熱。夜半に及ぶ熱のこもった懇談は、簡略な記述に著すを許さず、ただ想像にお任せするのみ・・・。

皆さん、お疲れさまでした。(記 中北 清)

アンチボランティアから推進派に 行政主導の福祉に疑問



二月定例学習会

平成二年二月6日(土) (社福) 大阪市社会福祉協議会 大阪市ボランティア情報センター
主査 脇坂 博史 氏
* * * * *

ふくてつく生みの親でもある、ボランティア情報センター主査の脇坂氏に『ボランティア活動』と私一四方山話』というテーマでお話を伺いました。

脇坂氏がボランティアに関わりを持たれたのは16歳で、「大阪市青少年指導員」を引き上げたのが始まりです。しかし当時ボランティアという意識はなく、むしろアンチボランティア派で、行政がなすべきことをボランティアに頼るのは間違っ

いると考え、ずっとボランティア活動に批判的でした。それが今のようにボランティア推進派に百八十度変わったのは平成3年の「欧州社会福祉視察」に参加してからのことです。行政主導の福祉には限界があり、ボランティアが必要であると実感されたそうです。その前年より業務としてボランティア活動に携わっており、企業の社会貢献活動も広がりを見せました。

ふくてつくは平成5年、社協が初めて作ったボランティアグループとして、誕生しました。その後も社協によって、様々なボランティアグループができ、活動しています。

その頃ボランティアに対する関心が高まってきたにも関わらず、市民に情報が伝わってないと感じ、平成6年にボランティア活動情報誌「COMVO」を発行されます。また高齢者・障害者・ボランティアなど地

域住民が一緒になって語り合う場づくりとして「サロン活動」を推進し、各地に広がりがつあります。この活動は社協職員もボランティアで参画されており、21世紀の地域福祉活動の基になるのではないかと感じます。(その他にも様々な実績をあげられていますが、紙の都合上割愛させて頂きます。)

「ボランティアグループの成熟過程(三段成熟度)」を紹介いたします。①まず何よりもボランティア同士、会うことが楽しいこと②心のバリアフリー(健常者と障害者の共同作業)③障害者自身のボランティア活動

ボランティア活動とは放っておいては出会わない人をいかに出会わせるかという意義もあり、あつてもなくてもいいがあつた方が豊かになる活動であるということです。また今まで福祉は行政から与えられるものであったが、これからは自分で選ぶもの、それが介護保険で可能になります。それにはボランティアの存在が欠かせないということです。

脇坂氏が今までされた役割の大きさを実感しまし

2000年の小くちゃんの初夢

定例会のお知らせ

2月	日時 2月5日(土) 午後1時30分~4時	場所 大阪市社会福祉センター 3階第5会議室	内容 討論会	配 次年度活動計画・予算 分計画他
3月	日時 3月4日(土)	場所・内容 未定		

ほたる草

大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市ボランティア情報センター内
福祉と住環境を考える会「ふくてつく」
発行責任者 代表：杉浦史郎
TEL 06-6765-4041
高齢者や障害者の住環境改善を目指すボランティアグループです

